

平成 27 年度東海・北陸地区国立高等専門学校技術職員研修会報告

技術室 ものづくり系班 佐藤 宏

1. 目的

この研修は、東海・北陸地区の国立高等専門学校に勤務する技術職員に対して、その職務に必要な知識を修得させるとともに相互啓発の機会を与えることにより技術職員の資質向上を図ることを目的とする。

2. 実施日

平成 27 年 9 月 2 日 (水) ～ 9 月 4 日 (金)

3. 主催

東海・北陸地区国立高等専門学校

4. 会場

福井工業高等専門学校

5. 研修内容

- 特別講演 「困った土のお話」福井高専校長 山田 幹雄
- プレゼンテーション及び討議「担当業務紹介及び所属組織の特徴ある取り組み」
- 実習「安全衛生活動」
- 研修 A「酸欠防止特別教育」
研修 B「走査型電子顕微鏡(SEM)を用いた材料評価実習」
研修 C「3D プリンターによる造型実習」
- 講義及び実習 Ichigo Jam 演習
- 救命救急講習 鯖江丹生消防組合
- 施設見学 福井県坂井地区水道管理事務所

6. 所感

北陸地区での技術職員研修の参加は初めてであった。

鯖江駅より福井高専へのアクセスがコミュニティバスのみで本数も少なく、開始時間が 9 時であったため間に合ったが、帰りはバスもない時間帯であったため、官用車のワンボックス 2 台でホテルまで送っていただいた。

参加高専の紹介において、富山高専では留学生対応のため、技術職員の語学研修を行っているとのことであった。技術的説明において必要なことかもしれないと考えさせられた。

福井高専では技術職員が安全衛生活動として、学内の WGBT(熱中症指数)及び支援作業室での照度の測定を行っているとのこと。

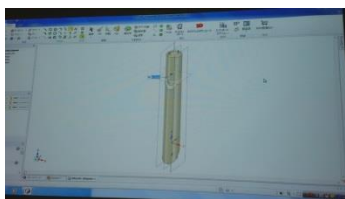
実習では、実際の測定器を使用し測定を行った。当日は曇りで時々小雨が降る中での測定であった

が、WGBT の測定値は 24.3 と注意レベルのデータであった。

特に熱中症に関して、本校でも鋳鍛造場では注意する必要がある WGBT の測定を行い、注意喚起が必要と思われる。

3D プリンターの実習では、フリーソフト(DesignSpark Mechanical)による図面作成及び、3次元造型機(キーエンス アジリスタ)による製品の製作を行った。

図面作成が主であったが、作成に関しては問題なくおこなうことができたが、造型機の加工に関しては人数分(6人)加工するのに約1時間30分かかるため、加工を初めてすぐに時間が来てしまった。その後、できた物を各自持ち帰ることはできた。サポート剤が水に溶けるもののため、処理は比較的楽にできるとのこと、ただし製品をきれいにするためには、コツが必要とのことであった。(流水だと製品が少し曇るので、サポート剤が溶けている水を使用すると比較的きれいになるとのこと)



Ichigo Jam 演習では、福井高専の卒業生で代表取締役 福野さんの講演を聞いたのち、演習を行った。



Ichigo Jam は福野さんが開発した 1 ボードのパソコンで、マウス・キーボード・モニターを繋げることで BASIC プログラムが動かせるものである。

小学生対象に講座を開いているとのこと。昔の n88basic を思いだして懐かしく感じた。

救命救急講習では、消防署より来ていただき、救命措置の手順及び AED の使い方の講習を受けた。

実際受けた感想としては、本校でも行ったことのある事柄であったが、救命救急法も日々変わっていて、以前受けた内容と少し変わっていた。別の雑談の中で、豊田では 3 年に 1 回、福井では 5 年に 1 回必ず講習を受けるとのこと。やはり本校でも数年にごとに受ける必要があると思われる。

最終日は、水道管理事務所の施設見学を行った。そこで興味深かった話として、薬品沈殿槽にて処理する場合、気温が低い時と高い時で攪拌スピードを変化させるとのこと。その条件を見つけるのが大変であったとの話を聞いた。





研修を受けた感想として、大変有意義な研修であった。特に WBGT の測定や救命救急講習はためになった。



また、工場内の案内や送迎等していただいた、富山高専技術職員の皆様に感謝いたします。